入

秘

内

起案　昭和十年五月二十五日

施行　年　月　日

主任

警保局長

警務課長

事務官

防犯課長

警察官吏ヲシテ戸口調査ニ際シ戸籍又ハ寄留ニ関スル届出ノ有無ニ付調査ヲ為サシムルノ件　司法省照會ニ対スル当局ノ意見

本件改正ニ付テハ警察ノ現況ニ鑑ミ左

記理由ニ依リ賛意ヲ表シ難シ

反対理由

一、戸口調査ハ一ニ警察目的ノ為ニスルモノニシテ管内ノ情勢ヲ知ル上ニ於テ最モ主要ナル方法ナリト雖之カ法ノ根拠ニ付テハ従来兎角ノ論議セラレタル所ニシテ而モ人民ニ於テハ之ヲ避忌スルノ傾向ナキヲ保シ難ク然ルニ本件照会ノ如ク戸口調査ニ際シ戸籍法及寄留法上ノ届出義務履行ノ有無ニ付調査ヲ為サシムルニ於テハ過料ノ科セル諸法ノ性質上却リテ人民ニ於テハ人口動態ノ実際ヲ申告スルヲ躊躇

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

スル傾向ヲ助長シ為ニ戸口調査本来ノ目的ヲ滅却スルニ至ルコトナキヤヲ虞ル

二、警察事務ハ現在既ニ相当複雑多端ヲ極メ従ッテ警察本来ノ事務ニ非ザルモノニ付テハ適当ニ之ヲ整理シ以テ事務能率ノ増進ヲ図ルノ要緊切ナリト認メラルルノ時ニ当リ更ニ警察本来ノ目的ニアラザル事務ヲ加重シ為ニ一般事務ノ渋滞ヲ来スガ如キ改正ニ付テハ警察ノ現況ニ鑑ミ俄ニ賛意ヲ表シ難シ。

日本標準規格B5（182×257mm）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

司法省
民事局 民事甲第四九五號

昭和十年五月七日

司法次官 金山季逸

内務次官 丹羽七郎殿

戸籍事務協議會決議ニ關スル件

客年十月長崎市ニ於テ開催セラレタル長崎控訴院管内各市聯合戸籍事務協議會ニ於テ別紙ノ通決議シ今般當省ニ對シ建議有之候處貴省關係事項タル第二ニ付テハ可成的其ノ實現ヲ期スル樣御配慮相成度第三ニ付テハ法令ノ改廢ヲ求ムルモノナルモ適當ノ機會ニ於テ御考慮相成度此段及得貴意候也

司法省

日記第三五八〇號

昭和十年二月二十一日

長崎控訴院管内各市聯合戸籍事務協議會

代表者　長崎市長　篠井幸一郎

司法大臣　小原直　殿

戸籍事務取扱ニ關スル省議變更其ノ他ノ件

昭和九年十月八日九日長崎市ニ於ケル本會第一回協議會ニ於テ左記ノ通決議致候條御採納相成樣致度此段及上申候也

記

一、省略

二、戸籍及寄留ヲ實體的事實關係ト吻合セシムル爲積極方法ノ一手段トシテ左記要項ニ付本會長ヨリ内務大臣ニ交渉スルコトヲ司法大臣ニ要望セラレンコトヲ求ム

要求事項

司法省

警察官ヲシテ戸口調査ノ際戸籍ニ關スル屆出ハ勿論特ニ寄留ニ關スル手續完了ノ有無ニ付一應必ラズ世帶主又ハ其ノ家族ニ對シ聞訊スコト若シ手續未濟ノ者アルコトヲ發見シタル場合ハ速カニ屆出ヲ履行スベク注意ヲ加ヘラルル樣格段ノ配慮方ヲ各府縣知事ニ内訓ヲ發セラレタキコト

理由

戸籍事務ハ其ノ性質上積極的ニ有形的施設ヲ爲スノ餘地尠ナク且其ノ效果直接ニ現ハレズ世人ノ注目ヲ惹クベキ華美ナルモノナキ爲動モスレバ他ノ行政事務ニ比シ輕視セラルルノ傾向アリ殊ニ近來著シク其ノ屆出ヲ怠ル者增加ス就中人ノ所在ヲ明カニスベキ寄留法上ノ屆出ノ如キハ全ク履行セラレズ殆ンド空文ニ等シキ感アリ如斯ハ一ニ如上ノ見解而已ニ止マラズ寄留制度ナルモノガ本籍外ノ場所ニ居住スル者又ハ本籍ナク若クハ本籍不分明ニシテ一定ノ場所ニ居住スル者ノ所在ヲ明カニスル爲公簿ニ記載シ一定ノ行政區域内ニ於ケル住民ノ現狀ヲ明カニ

セントスルニアルニ引換ヘ我國社會組織ノ特色タル民法上ノ家ハ有形的家ヲ指サズ法律上ノ所在ニシテ抽象的觀念ニ因ル家ヲ指シ事實上ノ所在ガ本籍ト一致シナイ複雜ナル關係ニ基因スル等要スルニ支那及我國ノ古代ヨリ明治初年ニ至ル迄ノ戶籍制度ノ如キ國民生活ノ記錄タルコトヲ本旨トセザル所謂舊來ノ家族制度ナルモノガ實質ヲ離レ形式化シタル點ニモ原由スベキモ斯クテハ一面戶籍本來ノ目的使命ニアラズト雖其ノ目的タル兵役、納稅、選擧、敎育、衞生、其ノ他各般ノ施政上之ガ利用及效用絕無トナリ延テハ諸般ノ統計ニモ影響シ國運ノ進展ニ甚大ノ關係ヲ及ボスベク吾人ノ洵ニ憂慮ニ堪ヘザル所ナリ因テ經費ノ嵩ムルコト無キ方策ヨリ漸進的ニ之ガ對策ヲ講ジ寄留制度ノ體用ヲ完ガラシメン爲茲ニ其ノ理由ノ一端ヲ敍シ眞摯ナル熱意ヲ以テ本案ヲ提出スル所以ナリ

決議　要望ス

三、種痘法第八條及同條ノ種痘符號記入方ニ關スル明治四十二年十二月司

法省令第二十二號ヲ廢止セラルル樣其ノ筋ニ上申シテハ如何

理由

現行法ニ因ル要種痘者ノ調査方法ハ

イ、戸籍及寄留簿ニ付前年出生ノ者ヲ調査ス

ロ、規則第十條ノ出寄留者ハ寄留地市町村長ニ其ノ旨通知ス

ハ、法第八條ノ通知ヲ市町村長ニスル

以下戸籍事務

ニ、法第八條ニ因リ第一期種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セザルニ至リタル者ノ戸籍欄外氏名ノ下ニ種痘符號ヲ記入ス

ホ、每年十二月末日迄ニ前年出生ノ本籍人ニシテ種痘符號記入ナキモノヲ戸籍簿ニ付調査ス

以上(ニ)(ホ)ハ戸籍事務トシテ其ノ他ハ普通行政事務ニ屬セルガ如キハ執務上極メテ煩雜ナル處右ノ如キ取扱ヲナサズトモ市町村ニハ要種痘者ノ本籍住所氏名其ノ他必要ナル事項ヲ登錄セル種痘簿ノ備付アルヲ以テ之ニ

依レバ一見直チニ種痘完了カ否カ判明スベキニ付其ノ之ヲ要スルモノニハ接種ヲナシ且又他ノ市町村ニ本籍ヲ轉ジタルモノニ對シテハ新本籍地ヘ其ノ旨通知スル様取扱フトキハ要種痘者ヲ遺漏スルコトナキト又其ノ取扱ノ手數ヲ簡易ニシ確實ヲ期スル點ニ於テハ現行法ト同様ノ效果ヲ收ムルモノト信ズ而シテ本法ハ明治四十二年以來施行ノモノニシテ制定當時ハ痘瘡豫防等ニ關スル知識ノ普及セザリシ爲戸籍簿ヲ基調トセル種痘ノ強制ガ最便ノ方法ナリトノ趣旨ニ因リ之ヲ實施セラレタルモノナルベシト思考スルモ二十有餘年ヲ經タル今日ニ於テハ教育ノ普及ト相俟テ保健衛生思想等モ著シク向上發達シタルヲ以テ一般民衆ハ自發的接種スル實狀ナリ

以上ノ理由ニ依リ本問ヲ提出シタル次第ナリ

決議　要望ス

司法省